

## 第2回県立大学の設置の是非を検討するための有識者会議 議事概要

- 1 日 時：令和3年11月5日（金）13：00～15：00
- 2 場 所：三重県庁講堂棟 131・132 会議室及びオンライン
- 3 出席委員  
宇野 健司 株式会社大和総研 リサーチ本部 副部長  
倉部 史記 NPO 法人 NEWVERY 理事、追手門学院大学 客員教授  
中村 佳子 株式会社丸中商店 代表取締役社長  
西村 訓弘 三重大学 地域イノベーション学研究所 教授  
吉田 文 早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授

### 4 内容

#### (1) 意見交換

当日欠席の長谷川 敦子委員（三重県立津西高等学校 校長）については、事前に議題についてご意見を提出いただき、事務局が読み上げました。

#### ○ニーズ調査の結果等をふまえた県立大学の必要性について

- ・調査結果では、高校生、保護者ともに「進学先の候補として考える」を選んだ割合が多く、また、その理由として「学費が安いイメージ」、「自宅から通える」が上位にあることから、県立大学は経済的な負担を最小限に抑えて進学できるという観点で一定の必要性はあると思われる。
- ・県立大学の必要性については、魅力ある大学づくり、大学と連携した地域活性化の効果に加えて、経費とのバランス等を踏まえたうえで、検討する必要がある。
- ・調査結果では賛成意見が多いが、反対意見にも丁寧に対応する必要がある。全国的な18歳人口の減少により、都市圏に若者が集中する「若者の偏在化」がより顕著になるため、地域の若者が進学できる大学の必要性はあるのではないか。また、データからはニーズが見込まれるため、県立大学を設置したとしても、県内からの進学者は増加しないということはないと考えられる。
- ・本質的な課題は、県立大学を設置しても就職時に学生が県外へ流出してしまう可能性があることである。そのため、学生と地元企業との結びつきを高める必要がある。
- ・大学が必要かと問われれば、あった方が嬉しいと回答するのは当然であるが、調査結果から一定のニーズは読み取れる。地元に残りたいが受け皿がなく、結果的に希望がかなわない生徒がいるのではないかと考えられるため、そういった観点から、大学をつくるべきかどうか議論を進めることは良い。
- ・県民のための大学にできるかどうかは、県民の期待に応えられる県立大学をつくり、維持できるのか、また、コスト以上の効果を地域にもたらすこ

- とができるのかといった、突き詰めた議論が必要である。
- ・ 県内高校生のためにつくるのか、特色ある大学をつくって全国から学生を集めるのか、県立大学設置の目的によって必要性は変わる。
  - ・ 地方創生の観点から、若者の県内定着を目的とした教育機会の創出を検討するならば、県立大学卒業生をどういうところに就職させたいのか、また就職の見込みがあるのかという点についてさらに詳しく調べる必要がある。
  - ・ アンケートでは「どうしても必要だ」という意見と「あってもいいかな」という意見が、どちらも「必要である」という項目に含まれてしまう。アンケートだけで、ニーズがあると解釈するのは危険である。
  - ・ 大学があれば街全体を活気づかせるだけでなく、地元企業にとっても、学生と連携する機会を得られるなど、企業活動の活性化に繋がる。大学の設置により若者が活躍する場が県内に増えることは、県にとって良いと考える。
  - ・ 県内には、工学系や理数系を希望する生徒が進学できる大学が少ないため、設置学部の候補となるのではないかと。また、入学時には就職を意識していない生徒も多いため、大学から自分の進路を選ぶことができるリベラルアーツのような学部があれば良いと考える。
  - ・ 高校生へのアンケート調査結果からは、県内では自分の希望を十分に満たせず、県外に転出する生徒がいることが読み取れる。特に、志が高い生徒ほど自分の希望を懸命に考え、県内にはその希望を満たす進学先がないために、県外へ転出するケースが多い。
  - ・ 県内高校生のうち、どのような層の生徒がどこに行くのか丁寧に見ていくことで、特に県立大学を強く希求する層が明らかになるのではないかと。既存の県内高等教育機関だけでは十分に満たしきれないニーズを満たすことができれば、三重県のこれからを支えてくれる生徒が、県内で学び、県内企業に就職してくれると期待できる。

#### ○県立大学が果たす役割について

- ・ 大学在学中に地域の魅力に触れる、地域と強い繋がりを持つ、県内企業と共同研究するなどにより、卒業後の県内就職につながる効果はあると考えられる。
- ・ 東北大学で今年度から、全学共通科目で初年次・2年次を中心に、地元企業を招いて学生にディスカッションさせる「社会体験ワークショップ」を行っている。
- ・ 県立大学の役割として、自分から主体的に動ける学生を地元にとどめるために、全学共通科目で初年次から、学生と地元企業が接する機会を創出し、

現在の大学ではまだ少ないアクティブラーニング系の授業を体験させることが有効であると考える。

- ・大学があることの経済効果は大きいですが、それだけでは不十分で、設置により地元の高校生や他の大学が活性化されるような大学であることが理想である。公立大学の新設によって県内の私大が淘汰され、結果的に地域の受け皿が減るようでは本末転倒だ。地域にフォーカスした学修や研究、企業連携のほか、地域の他の大学への進学理解にも繋がるような探究学習の提供や、他大学と連携した地域の経済活動に資する授業の開講など、さまざまな方法が考えられる。
- ・県立大学の果たす役割を大きくとらえ、県立大学に入学した学生だけでなく、地元の他の大学やその学生、地域の高校生や企業に対しても広くプラスの影響を与えることができるのならば、県立大学をつくる意義はある。
- ・地元との密着度の高い県立大学の設置を検討しているのであれば、インターンシップの受入れ見込みや研究面での産学連携の可能性など、地元企業との連携方法や、設置後の県のサポートも含め、綿密に考えておく必要がある。
- ・20年後、30年後まで見据え、大学が存続できるのか、大学設置・学校法人審議会では厳しく審査されている。県の18歳人口がどうなっていくのか、地元から転出した人がどれだけ戻ってきているのかといったこともしっかり調べておく必要がある。
- ・企業と学生が接点を持つことは、企業にとって刺激があるだけでなく、学生にとっても就職してからの自信に繋がる。今の学生は大人と関わる経験が少ないため、就職してから戸惑うことも多い。地元企業や地元の組織・団体と学生が接点を持つことは、双方にとってメリットが大きい。
- ・大学が提供するカリキュラムを他の大学の学生や社会人が受講でき、大学院生として受け入れてくれるような大学であれば、さらに地域が活性化するのではないか。
- ・県北部は製造業が順調だが、産業構造の変化への対応が求められており、県南部では過疎化と高齢化が進んでいるが、素晴らしい地域資源に恵まれている。大学に求められることも多く、産業連携のしやすい地域である。クロスアポイントメント制度を使い、地元企業の社長を教授として迎えるなど、地域を巻き込んださまざまな方法が考えられる。
- ・今、大学は、社会からその在り方を問われている。大学のこれからの在り方を踏まえた新しい構想の大学というものを考えるべきではないか。
- ・県立大学であれば、県の政策を考えていくシンクタンク的な役割を担うべきである。そのような意識を持った教育は、リアリティを持って産業界と協力でき、学生にとっても面白くなると思う。

○これからの大学に求められる条件について

○今後の18歳人口の減少に伴い大学の設置は必要でないとの意見について

- ・県外からの志願者にとっても魅力ある大学となるよう、他の公立大学で取組の少ない独自性のある教育内容（教育活動）も盛り込み、特色化を図る必要があるのではないか。
- ・県立大学の役割と効果について、事前に費用対効果をどの程度見込むのかを十分に検討しておく必要がある。
- ・どのような県立大学ならつくるべきかの基軸は3つある。1つ目は、やる気と主体性、行動力がある学生を育成するために、アクティブラーニングのような参加型の授業をなるべく多く取り入れること。2つ目は、地元の産業界や団体も巻き込み、協力を仰ぐこと。3つ目は、政策提言を行うシンクタンク機能を持つこと。補足として、他県や世界の学生と交流し、オンラインをうまく取り入れ、教員や学生にとってオープンな学校にすることも大切である。
- ・高等教育機関は偏在が著しく、大都市圏に集中している。企業活動も同様だ。その中で「地域の若者や企業を支える大学」が必要だということならば日本全体が少子化の中でもつくる意味はあるのではないか。逆にいうと、設置にあたっては県内入学・県内就職の比率や産業界への貢献度などが重要となる。
- ・魅力ある突出した大学と地元のための大学は、時として相反する。突出した大学は、全国から優秀な学生が集まり、結果として県内入学率が下がる。それは悪いことではないが、三重県はもともと、地元の生徒のために大学をつくるべきではないかという意見から議論が始まっていることを忘れてはいけない。
- ・大都市圏での生活を経験するため、大都市圏の大学と学生を交換する制度があっても良い。大都市圏の学生と三重県の学生の双方に有意義となるように設計すれば、これからの地方の公立大学の良さが発揮できるのではないか。
- ・将来の県の大学進学率や18歳人口の推移を見据えて、大学の規模を決めていかないと、定員割れとなるのではないか。また、県立大学に対する多額の支出を議会から認めてもらえるのか、あらかじめ考えておく必要がある。
- ・規模の小さい大学では、どのようにすれば規模の経済を働かせることができるのかという検討も必要である。国立大学同士で同一法人になるケースや国立大学と県立大学が設置形態を超えて連携する事案が起きている。
- ・コロナ禍で、親の経済状況の悪化により、学費を工面する力が弱くなって

- いる。そうすると、地方の学生の学ぶ機会が一層減ってしまう。
- ・三重県の大学進学率は全国と比べて低いが、本人が希望しないので進学しないのか、親の経済状況により進学できないのか。進学したい希望があっても県内では進学できず、県外では生活費の負担から進学できない生徒もいるのではないかと。生徒自身の努力も必要だが、学ぶ意志のある生徒には、学ぶ機会を与えてあげてほしい。また、4年間で本当に実力がつく大学でなければ進学する意味がない。
  - ・三重県の進学率の低さの要因は、既存の大学に偏りがあり、ちょうど行きたい進学先がないためではないか。三重県の大学収容力は全国最低水準である。学力の高い生徒は全国的に大都市圏をめざす傾向にあるが、三重県は立地的に転出しやすいため、よりその傾向が強い。一方、希望する大学に進学できない生徒は、経済的に負担が大きい中、進学自体を諦めてしまうのではないかと。三重県にいて、学ぶ機会を逸している生徒がいるのではないかと。という点は、丁寧に見ていく必要がある。
  - ・地元性を生かし、さらに突出した大学とするには、実践の場での学びが必要である。地域のための大学は、地域に閉じているわけではない。三重県の企業、行政は全世界に通じている。三重県の地域課題の解決は、日本の課題解決に繋がるかもしれない。その意識を持ちながら、さらにオンラインで、海外も含めた他大学と連携しながら本当に必要な教育を受けられる大学であるべきではないか。
  - ・これからの時代に生きる子どもたちのために、どういう大学にしたらいいのかを徹底的に議論し、大学が持つ哲学を明確にし、これを県民の皆さんと共有して、実行するのであれば、県内高校生の受け皿になるだけでなく、県外の学生にとっても魅力となり、県に定着してもらえるのではないかと。

#### ○自由討議

- ・県立大学の設置の是非を判断するには、マイナス、ベース、プラスをきちんと整理して検討する必要がある。
- ・マイナス面では、2点指摘があった。1点目は、18歳人口が減っていく中でニーズがあるのかという問題である。この点については、全国的に見て国公立大学のニーズは高く、それほど心配はないのではないかと。もう1点は、財政的な問題である。県有地や現在ある施設を活用するといった初期費用を抑える工夫も含め、精査が必要である。ベースは定員と学部である。大学設置基準や財政面もふまえた検討が必要である。
- ・公立大学であれば、定員割れよりもむしろ全国から志願者が殺到し、県民が入学できないのではないかと。というリスクが大きいのではないかと。地元の生徒の受け皿になり、地域のための大学になるには、いろいろな工夫が

必要で、財政的・人間的な負担も大きい。そうした覚悟を持ってなお大学を新設すべきなのかが問われる。

- ・ 県南部の生徒が立地場所により県内の既存大学へ進学できない、あるいは、南部から出るのであれば県外へ出るのと変わらないという状況があるのであれば、県立大学をつくるよりも、その予算で県内の既存大学周辺に学生寮を整備した方が良いという考えもありうる。
- ・ 三重県は南北に長いことから学生が通学しやすく、かつ高等教育機関がないために進学を諦めているような高校生たちにとって、メリットになる設置場所の検討が重要である。
- ・ 県外の学生にとって通学が難しい立地であっても、一方で、その市町で学生が下宿し、生活することで町に活気が生まれるという効果があるのではないか。なお、その場合であっても、経済的負担軽減のため、県内の学生は極力通学できる立地の方が望ましい。
- ・ 県では通学時間の長さはある程度受け入れられており、学生に意欲さえあれば、通学についてはそれほど心配しなくていいのではないか。仮に下宿するとしても、大都市圏と三重県内では、経済的負担はかなり異なる。
- ・ 県南部には、地元から出るのであれば県外へ出るという生徒が多い。県北部の生徒は、名古屋に近いので南へ来ない。県の実情を考え、県民に希望する教育機会を提供できているのかという視点は持つておいた方がよい。
- ・ 県の産業界からは、共同研究や人材供給、リカレント教育や事業承継、一次産業の大規模化をしていくための人材育成が求められている。県立大学をつくるのであれば、そういったニーズを丁寧にくみあげて、大学の在り方や機能について考える必要がある。
- ・ これからの大学の設置は、不利な条件から始まると考えておかなければいけない。それでも設置するならば、これからの新しい大学像を見据え、これからの教育を引っ張っていくという覚悟を持つ必要がある。
- ・ 県立大学の設置は慎重に行うべきであるが、検討に値するのではないかと考える。どのような大学とするのかというような絶対に踏まえておかなければならない項目を、データを示しながら整理し、次年度の議論に資するよう提言したい。